

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

1 研究開発課題名	
「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発	
2 研究の概要	
<p>本研究では、教科「商業」の学びを通して、将来、観光を軸にして地域社会で貢献できる専門的職業人としての資質・能力を育成するために、教科「商業」としてどのような教育プログラムが有効か、という点について、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技会場地（サーフィン）となった一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて明らかにする。具体的には、『DMO』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、本校生徒が、一宮町を始めとする隣接市町等との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者を巻き込み、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織（＝高校生版DMO）を主体的に運営し、各種観光データの活用による観光マーケティング戦略の策定や、「モノ消費からコト消費」の流れに対応した着地型観光商品・サービスの開発及び販売、インバウンド受入体制の構築、首都圏からの観光客をターゲットに据えたプロモーション活動及び関連コンテンツの制作に取り組む過程をとおして、専門的職業人を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科・科目横断的な視点を活用した、観光ビジネスに必要な知識・技術の習得に関する研究 2 「高校生版DMO」としての活動による、実践的な観光人財の育成に関する研究 3 生徒の主体的、協働的、実践的な学びを多面的に評価する方法に関する研究 	
3 平成30年度実施規模	
「第1学年を対象に実施した」	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>地域観光ビジネスの基礎的知識や、コミュニケーション能力、情報活用能力など、ビジネスに関する専門的知識・技術を習得させるとともに、地域観光の実状を理解させる。そのために、下記の内容で研究を進める。</p> <p>○5つの分野（『DMO』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』）に重点を置き、それぞれ分野ごとに講演会の開催及び該当科目での学習による知識の習得</p> <p>○クロスカリキュラムを利用した効率的な学習カリキュラムの編成</p>
第2年次	<p>1年目の事業に加え、</p> <p>各分野ごとに研究開発を進化させ、観光ビジネスに必要な知識・技術を習得させるとともに、「高校生版DMO」としての活動による、実践的な観光人材を育成する。</p> <p>○学校設定科目「地域観光Ⅰ」</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・クロスカリキュラムの実践 ・「高校生版DMO」の実践的な活動研究 ・観光マーケティング塾(初級編)の開催 ○「コミュニケーション英語Ⅱ」 ・能動的なコミュニケーション活動と実践的なコミュニケーション能力の定着 ○「地理歴史」 ・国際的な視点から見た、地域の地理的特徴の理解 ○「プログラミング」 ・一宮町の魅力として紹介する観光名所やイベント、歴史、店舗などについて紹介するマルチメディアコンテンツを作成 (作成するコンテンツは、写真、動画、音声などのデータをフィールドワークで収集し、観光アプリで紹介する一宮町の魅力に関するページ作成)
第3年次	<p>2年目の事業に加え、 各分野ごとの研究開発をもとに、地域に誇りと愛着をもち、より良い地域社会の構築に向けて主体的・協働的に取り組むことができ、専門的知識・技術を駆使した実践力を発揮することで、地域観光ビジネスの活性化を通じて地域社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「プログラミング」 ・2年次に作成した観光コンテンツをアプリで表示する方法の学習 ・Googleストアにリリースして、ダウンロード数をもとにした作品の評価 (一宮町の観光アプリを開発することにより、IT技術を使った地域振興) ○学校設定科目「地域観光Ⅱ」及び「課題研究」 ・「高校生版DMO」の本格的運営をととした実践力の育成 ・観光マーケティング塾(応用編)の開催 ・一宮町サーフィン競技会会場におけるオリンピック開催中の観光ボランティア活動への参加

○教育課程上の特例(該当ある場合のみ)

該当なし

○平成30年度の教育課程の内容(平成30年度教育課程表を含めること)

(1)「情報処理」:一宮町の観光や歴史に関する情報を収集・分析し、グループやクラスなどで観光アプリのアイデアをプレゼンテーションソフトを活用しながらコンテスト形式で発表させる。このことにより、情報収集・活用能力を高め、プレゼンテーションでの効果的な話し方や進め方などの技法を習得させる。

そのために、下記の内容で学習を進める。

- ①アイデアを考案する方法についての講演会
- ②観光アプリアイデアを考案するための情報の収集
- ③プレゼンテーションソフトを活用したスライド資料の作成方法の学習
- ④聞き手に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーションの学習
- ⑤観光アプリアイデアコンテストの実施

(2)「ビジネス基礎」

:地域観光ビジネスに関する基礎研究として講演会を開き、地域の実情や課題

について学習させる。

- (3) 「現代社会」：一宮町の伝統文化や魅力について、調査・研究を行い、一宮町の観光資源について関心を高め、地域をより理解させる。

①十二社祭りについて、観光客にアンケート調査を行い、レポートにまとめる。

- (4) 「コミュニケーション英語Ⅰ」

：外国人観光客を見据えた英語によるコミュニケーション能力の育成として、

- ①外国人の困りごとを解決し、支援するといった内容の講演会を実施する。
②上記講演会を受けて、授業の中でボランティアの大切さなどを学習する。
③外国人観光客の案内について学習する。

○具体的な研究事項・活動内容

- (1) 『観光・地域ビジネス』分野

- ①講演会：9月4日（火） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「地域の方へのインタビュー方法・スキル・マナーやプレゼンテーションの方法について」

講 師「千葉日報社 廣田和広」氏

- ②「現代社会」

一宮町の伝統文化である上総十二社祭りを生徒自らの目で見て、さらに参加者にインタビューや調査をすることにより、自らの耳で聞く体験をする。

・学習の初めに、意識づけのためのアンケート調査を実施し、上総十二社祭りの歴史について学ぶ。

・上総十二社祭り当日、参加者に参加理由や生活の中での位置づけ、参加者の思いをインタビューすることで、一宮町の伝統文化理解につなげる。

・事後学習としては、各班からインタビュー調査の結果を報告させ、情報の共有を図る。この学習をとおして、観光ビジネスに関する意識向上や観光アプリ作成に役立てる。

- ③ディスカッション：9月20日（金）1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「十二社祭について」

講 師「玉前神社 氏子総代会 会長 加藤俊夫」氏

・生徒があらかじめ考え、整理した内容について地域の方へ直接質問することにより、情報収集力、分析力、コミュニケーション力の伸長を図る。

- ④講演会：10月2日（火） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「地方創生と観光振興について」

講 師「株式会社 ちばぎん総合研究所 関 寛之」氏

・この講演での各地域の活性化対策の事例を見ながら、県内の課題と取り組みについて理解を深めるとともに、観光地として、国内、国外から多くの観光客が来ることを想定し、それに対応できるコミュニケーション能力の向上を図る。

- (2) 『国際交流』分野

- ①国立員林高級家事商業職業学校との交流事業

・海外の高校生と直接ふれあう機会を持ち、多様な文化や価値観を共有する。

また、そのための英語学習の必要性を認識し今後の取り組みにつなげる。

- ②ガイダンス：7月19日（木） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

・研究課題達成に向けた効果的な学習活動が実践されるよう学習スケジュールの提示

- ③講演会：10月3日（水） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「英語を用いたコミュニケーションの必要性」

講 師「株式会社ベネッセコーポレーション 三島 翼」氏

・この講演をとおして、今後さらに進むグローバル化と社会の動向について言及し、よりよいコミュニケーション能力を身につけられる資質を向上させる。

④「コミュニケーション英語Ⅰ」

- ・日本を訪れる外国人観光客が抱える困り事について生徒に客観的な視点で考える。生徒がこれまでに経験した国内外の観光地での困り事を思い出し、その解決策を外国人の立場で考える。
- ・オリンピックの歴史や、開催意義について理解し、オリンピックボランティアの役割について理解する。2年後の東京オリンピック開催に向けて自分ができることについて考える。

この学習をとおして、外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力を育てる。

(3) 『観光コンテンツ』分野

①講演会：7月17日（火） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「高校生による、魅力あふれる地域づくりにむけて」

講 師「中小企業庁 上坂 理」氏

- ・この講演をとおし、観光ビジネスをテーマとした高校生の取り組みが地域経済の振興のためにいかに重要であるかを認識させることで、観光に関するアプリ開発の一助とする。

（観光に関するアプリを多数紹介し、アプリに掲載するコンテンツについての解説）

②「情報処理」

- ・観光アプリのアイデア考案
- ・プレゼンテーションソフトを活用しながら、グループ等で授業内発表

③観光アプリアイデアコンテストの開催（クラス代表者）

11月26日（月） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

- ・当日は、一宮町長をはじめ、多数の審査委員をお招きし、審査に加わっていただいた。このコンテストをとおして、技術的に実現が可能なアイデアを調査し、具体的に形にしていくことができる。

(4) 『DMO』分野

①サーフィンの国際大会観戦

5月24日（木） 1年生希望生徒20名程度

会 場：「一宮町釣ヶ崎海岸」

- ・大会運営者による会場案内および、サーフィン競技の見方について説明を受け、東京五輪の前にサーフィンの魅力に触れさせる。

②なみのり甲子園運営補助

8月12日（日） 3年生希望者数名

会 場：「一宮町釣ヶ崎海岸」

- ・高校生を対象としたサーフィンの大会の運営補助を行うことで、サーフィンの大会がどのように運営されているのかを知るとともに、サーフィン競技に対する興味関心を深めさせる。

③講演会：10月19日（金） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「観光学の基礎的な考え方とDMOについて」

講 師「合同会社いちのみや観光局 代表 宇佐美 信幸」氏

- ・この講演により、「観光」の学習に取り組むにあたって、「DMO」について理解を深め、新しい知識を習得する。

(5) 『観光マーケティング』分野

①講演会：7月11日（水） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「一宮町 魅力と課題・観光の側面から」

講 師「一宮町長 馬淵 昌也」氏

- ・この講演をとおして、一宮町の地理的環境や特徴、町の観光について、今後の課題等を理解するとともに、一宮町について新たな知識を習得し、今後の観光マーケティングに役立てる。

②講演会：12月13日（木） 1年生 商業科・情報処理科 162名 対象

演 題「マーケティング戦略（地域振興活動・ファンサービス・地域行政との取り組み）について」

講 師「株式会社 千葉ロッテマリーンズ 長雄 賢治」氏

- ・現在千葉県内で地域振興活動や行政との様々な取り組みを行いながら、地元根付いて活躍している千葉ロッテマリーンズが実際に行っているマーケティング戦略の講演を通して、マーケティングの大切さを学習するとともに、来年度のマーケティング塾への興味関心を高める。

5 研究の成果と課題

○実施による成果

(1) 『観光・地域ビジネス』

①「地域の方へのインタビュー方法・スキル・マナーやプレゼンテーションの方法について」の講演会を終えて

- ・町の魅力を地域の人にPRする際に、これから身につけるべきコミュニケーション能力について把握することができた。

②「地方創生と観光振興について」の講演会を終えて

- ・新たな知識・技術を習得でき、スキルアップしていると答えた生徒は、9割を超えていた。これは、一宮町の魅力を再発見できた成果である。
- ・今後一宮町の地域・観光について、課題を解決していきたいと答えた生徒は、9割を超えていた。

(2) 『国際交流』

①「英語を用いたコミュニケーションの必要性」の講演会を終えて

- ・講演会実施による最大の成果は、生徒たちが英語を第二言語として使用しているいわゆる「ノンネイティブスピーカー」について、強く認識できたことである。

(3) 『観光コンテンツ』

- ・観光アプリアイデアコンテストを終えて

①授業や実習等に積極的にとりくむことができ、学ぶ意欲が高まったと答えた生徒は、9割を超えていた。これは、自ら調べアイデアを考えたり、生徒同士で話し合い、発表するといった主体的・対話的で深い学びに対する教育効果に有意性があることが示されている。

②学びを通じて、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながったと答えた生徒は、9割を超えていた。これは、プレゼンテーションに関する知識・技術を体験的に学習することができたと考えられる。

(4) 『DMO』

- ・「観光学の基礎的な考え方とDMOについて」の講演会を終えて

①一宮町の「観光地域づくり」に取り組んでみたいと思った生徒は、8割5分を超えていた。

②「DMO」について理解できたと答えた生徒は、9割を超えていた。

これらの結果は、講演をとおして観光や観光ビジネスについて理解を深めることができ、またDMOについて、「地域の観光プロデューサー組織」という言葉を耳にして興味関心を持ち、観光地域づくりに取り組んでみたいと考えた生徒が増えた結果である。

(5) 『観光マーケティング』

①「一宮町 魅力と課題・観光の側面から」の講演会を終えて

・この講演をとおして、一宮町の新たな魅力や改善点を理解し、今まで知らなかった多くの知識を習得することができた。

②「マーケティング戦略（地域振興活動・ファンサービス・地域行政との取り組み）について」の講演会を終えて

・この講演を通じて学ぶ意欲が高まったと答えた生徒は、9割を超えていた。

・マーケティング活動について理解できたと答えた生徒も、9割を超えていた。

これらの結果から、講演前まではよくわからなかったマーケティングについて、その内容及や必要性についてある程度理解させることができた。

○実施上の問題点と今後の課題

・本校では、観光を軸にして地域社会に貢献できる専門的職業人としての資質・能力を育成するために、どのような教育プログラムが有効か、という点について、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて『DMO』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、研究を進めていく。

①今年度はその1年目として、地域観光に興味・関心を持ち、ビジネスとして捉えることのできる人物の育成及び地域観光ビジネスの基礎的知識や、コミュニケーション能力、情報活用能力など、ビジネスに関する専門的知識・技術を習得するとともに、地域観光の実状を理解させることが目標であった。この目標については、実施内容及び成果に記述したとおり、概ね達成できたと思われるが、まだまだ職員全体の情報の共有や生徒に対する目標の徹底が不足しているように思われる。

②目標に向けた学習活動の達成度を判断するために、ルーブリック等の評価を示し、指導と評価の一体化を目指す。

③地域人材や組織・団体との連携は、本研究の推進に不可欠である。地域の思いと学校の狙いを十分に話し合い、DMOが有効に機能するための望ましい姿は何か、常に検討を続けていく。

④来年度は2年目ということで、今年度の活動及び問題点を踏まえて、地域観光の課題解決に向けて、合理的・創造的に取り組むことのできる人物及び地域観光に関する課題を発見・設定し、専門的職業人としての倫理観をもって合理的・創造的に課題を解決することができる資質・能力を育成していく必要がある。